

四谷の

千枚田だより



第 123 号

の 棚田にお
ける 取り組
み が 発表さ
れた。

分科会 は 第

一分科会「棚

第十九回全国棚田(千枚田)サミット

十一月八日、九日、和歌山県有田川町に於いて「人、まち、棚田とともに未来へ」を伝えよう！まもる心、うけ継ごう！豊かな恵みをテーマに開催された。

開催趣旨 農家の高齢化や担い手不足など農業を取り巻く情勢は厳しさを増しており、地域の景観や水源涵養、洪水防止など先達が守り続けてきた棚田が有する多面的機能を将来にわたり、持続していく取り組みが必要となってきています。

そうした中、全国各地でさまざまな棚田等保全活動に取り組んでいる方々の事例などを紹介いただき、意見交換や交流を図り、持続的な保全活動へのつながりを期待すると共に、地域一丸となって保全に取り組んでいくため、有田川町で「第十九回全国棚田(千枚田)サミット」を開催します。

〔二日目〕基調講演は写真家青柳健二氏によるアジアの棚田と日本の棚田が紹介された。事例発表は県立有田中央高校の「あらぎ島等での取り組み」。和歌山大学観光学部の「沼

田と文化的景観保全のあり方、取り組み。第二分科会は「梯田(棚田・段々畑)条件不利地域における土地利用の意識と保全」。第三分科会は「棚田保全活動を契機とする地域活性化・地域づくり」。第四分科会は「学生ボランティアと地域による棚田保全への取り組み」と題してディスカッションされた。なお、本会は年に一度の情報交換の場であったが全国規模に拡大、保存会同志の意見交換が難しくなってきたため、本年初めての試みとして「棚田保存会意見交換会」が開催された。交流会は百姓、棚田関係者が一堂に会し親密な情報交換がなされた。

〔二日目〕現地見学会は「あらぎ島と上湯用水路」を地元民の礼節を持った温かいおもてなしのもと、幾何模様の棚田の散策を行った。

提言

分科会のあり方

(舜)は過去十六回ほどサミットに参加しているが、パネルディスカッションについて提言したい。

我々百姓は棚田の保全継承、過疎、高齢化など多くの悩みを抱え、苦慮している。その打開策に期待をもつ



て参加してきたが、毎年、壇上で俄作りのパネリストのパフォーマンスに辟易。参加者の多くは棚田関係者を交えた交流会と現地見学会を楽しみに参加しているのが実情である。昨年も(舜)は全国から参集した百姓のそれぞれの悩み、課題等を主眼とした提議、話題の場を作っていただきたいと生意気にも主張してしまつた。聞くところによると本

年の分科会も従来通りで、多くの参加者から眠気をもよおしたと愚痴が聞かれた。救いは「棚田保存会意見交換会」が試行されたことで、我々百姓が自由闊達に意見交換ができ、明日の展望が見いだされた有意義な会に終始したことである。また、これを一助とし、来年の山形県開催の企画に託したい。(舜)

有田川町の実行委員会、住民の皆さん、協賛、後援の皆さんの温かい

おもてなしにお礼申し上げます。

収獲感謝

十二月八日(日) 十時～十四時

保存会は恒例となつた「みんなでよいしょ！感謝をこめて、餅つきを」連谷お助け隊、棚田っ娘の協力で開催する。当日はつきたての餅や田畑を荒らし栄養満点の捕獲した猪をシシ汁にしたり焼肉などを用意する。また、五平餅の販売も行う。アトラクションはお馴染みの「河西忍とゆかいな仲間」のミュージックショーが華を添える。



景観環境整備

十月二十日、保存会は連谷お助け隊の協力で「千枚田入り口付近・ふれあい広場」の草刈り作業を「あいち森と緑づくり事業」を活用して行われた。



坂折棚田シンポジウム

十月二十六日 岐阜県恵那市坂折棚田で第九回全国棚田サミット開催十周年記念事業坂折棚田シンポジウムが「これからの棚田」をテーマに開催された。中島峰広先生の「棚田百選とこれからの棚田」と題して基調講演が行われた。パネルディスカッションでは中島先生の他、(舜)、柘植康弘(棚田オーナー)、鈴木直(保存会前会長)、田口理事長がパネリストとなり、「地元の悩みを生かし、棚田の今後を探る」をテーマ

に話し合った。コーディネーターは四谷の千枚田でもおなじみの相田先生が務められ、活発な意見交換がなされ、参加した行政、棚田関係者に今後の坂折棚田の活性の一助となったと自負するシンポジウムであった。



研修受け入れ

十月二十八日 JICA 中部の依頼でベトナム研修生四名は「棚田と小水力」をテーマに小山舜二(自然体験活動指導者農林)を講師に行われた。研修生はまず、整然と管理された棚田に「なぜ、ここまで丁寧なこ

とをするのか。」国民性の違いに興味深々な質問が続出した。研修生たちは少数民族であり焼畑農耕が主で、田んぼもあるものの、かなり大雑把のようである。研修目的の一つとして焼畑の跡に植林をし、成木になったら板材に挽き、搬出。日本などに輸出し現金を求める。等々、壮大な目標を語った。(舜)は研修生の熱意に水を注すようであるが我が国の木材の低迷の実情を説いたりしたが、かなり貧乏のようであった。



三遠南信サミット

第二十一回三遠南信サミットは南信州では「新しい連携体制の実現に向けて」三遠南信連携の発展と越境連携地域交流をテーマとし、各分科会において、現在の状況、課題を検証の上、今後の展開に向けた取り組みについて議論をした。

ふるさと指導員全体会議

十一月一日 愛知県ふるさと・水と土指導員連絡会議が身平橋集会場と千枚田を会場に行われた。宮林課長の挨拶に続いて原田英史指導員による「稲作体験学習」等の活動報告。県新城設楽農水事務所建設課加藤技師により「小水力発電」について報告。続いて現地概要説明、小水力発電装置の見学のあと集会場に戻りミーティングが行われた。

棚田の楽耕

十一月二日、楽耕生(親子十七名)は稲作プロジェクトチームが置き去りにした板橋が老朽化し、危険が伴うため撤去作業を行った後、地域料理「五平餅」作りに挑戦、秋の一日を満喫した。

今後の活動予定

- ・十一月十七日(日)、保存会は連谷お助け隊主導で連谷地内の環境景観整備を「あいち森と緑づくり事業」を活用して実施する。
- ・(講演)十一月二十二日(金)、三遠南信文化交流講座(クリエート浜松)「千枚田を核にしたむらづくり」(舜)
- ・(講演)十二月二日(月)、一宮商工会の依頼で「四谷の千枚田から」地域おこしについて(舜)
- ・十二月八日(日)、収穫感謝祭

行 平成二十五年十一月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二